常磐毎日新聞
一月十日　夕刊
定價　一部金貳錢　一ヶ月金五拾錢　郵送料共
廣告料　第一行五拾錢、場所指定二拾七錢
日曜・祭日の翌日休刊
發行所　常磐毎日新聞社
電話　六三〇番
印刷所　常磐毎日印刷株式會社
電話　四〇二〇番

印刷の御用は
常磐毎日印刷株式會社へ
電話六三〇番

武名天下に轟く……
兩角大佐來平
市役所を訪問して遺族の人々と面談
講演會も開催を折衝中

東亞新秩序の建設に偉大な武勳を覺し『兩角部隊長』の武名を天下に轟せ今回東京本郷聯隊區司令官に榮轉した歩兵大佐兩角業作氏は數日前より部下將兵出身の郷土を訪問挨拶し遺族や傷病勇士を慰問の爲め來縣中であるが十二日午後平驛に到着市役所を訪問して遺族の人々と面談した上十三日東京へ歸る豫定の由であるところから平市は此の雄將を迎ふる絶好の機會に兩角大佐の胸底に溢る感懷を聽かんと講演會開催の爲め軍事關係の團体等は目下種々折衝中である

が當日は仙臺よりの歸途であつて平驛の到着時間等は未だ判明しないと

漁業保險の組合創立總會

既報漁業家縣案の縣漁船保險組合は舊臘來諸準備を進めてゐたがいよ〳〵今十日平市公會堂に縣下各漁業組合代表等二百餘名參集創立總會を開催、定款の制定役員の選任を行ひ直に登記の手續を執り今月中は第一回の拂込みをすることに決定した

理髮業組合が優良徒弟表彰
けふ平署管内總會

平署管内の理髮業組合では今十日午前十時から同署會議室に總會を開き決算、豫算を附議、役員の改選を行つた後優良店主並に優良徒弟の表彰式を擧行したが受賞者は左の如くである

▲店主(平)國部清三、鈴木敬一、八島シマ、(片寄武(内郷)箕輪義彦、瀧春江、荒川正夫、稲本ミネ、西牧とき(江名)猪狩昇一郎(好間)大谷末治、鈴木伊太郎(小川)鈴木藤太、鈴木クニ、大野マス(小名濱)遊佐軍之助(湯本)根本辰秋

△徒弟(平)高野眞方高野秋五郎、野崎秋光方神成壯市、鈴木角太郎方飛田安造、淺田エン方木戸イチ子、宮川義一方鈴木已代治、同佐藤光芳、高橋鄕子方今村文江、坂本ヨシメ方宮本タイ、水野冬子方池田ミツ子、同水野正(江名)水竹武方岩本增雄、楠田仙治方菊地貞藏(好間)箱崎欽一方箱崎君江、(小川)高木長助方淺田金吾(小名濱)永井安藏方田邊富士雄鈴木キク方川上ハツヨ武藤イノ方高野マサ(内郷)箕輪義彦方小野高雄、佐藤濱吉方五十嵐忠、寒河江松男、平山直藏方松本フチ子、安齋寅治方根本正造、鈴木政秀方大井ナツ、吉田具方吉田由雄、菜花義晴方菜花浩、齋藤キミ方箕輪竹子

舊正月の物價に
警察の眼光る
嚴戒依然怠りなし

平署の經濟警察は年末年始に際しての物價騰貴を防止し官内各方面に嚴重な監視の眼を見張り既記の如く良好の成績を納めたが本市を始め舊暦を用ひる習慣になつて居る處から更らに舊暦の年末年始に際して一層嚴戒を加へ極力統制價格の維持に努力する方針であると

湯本慰問金
湯本町入山炭礦社宅の齋藤サツさんは納豆を賣つて得た益金三圓七十錢をこの程皇軍慰問金として献金した

一丁目献金
平市一丁目では今十日區民からの献金と廢品を集めて賣つた金五圓三十錢を區長明智榮司、青年團長高瀨勝男兩氏が代表いづれも市役所を通じ國防費に献金した

山林に延燒
植田町大字江畑字江馬富岡左近氏方から九日午後三時半頃發火折柄の强風に煽られ火は忽ち燃えひろがり住家二棟を全燒した上附近山林に延燒したが附近民を始め消防組、青年團等の盡力により間もなく鎭火した、原因は小兒の弄火

郷土演藝
慰問團感狀

既報平市からも中島湖州さん他二名が加はり過般出發した本縣の郷土演藝慰問團の一行は舊臘三十一日送中無事現地に到着したが元旦早々大いに活躍郷土出身の將兵を慰問した旨十日荻洲部隊長から宵沼市長宛左の如き禮狀が寄せられた

貴縣代表の慰問團三十一日無事到着す、特に慰問團の活躍のため元旦に於ける將兵の志氣大いに擧がれり、我等將兵一同熱烈なる御後援に對し衷心感謝の意を表し將來益々奮勵御期待に副はん事を期す

たゞ軍需工業界の華やかさに憧れて
兒童の適性關係を無視
理解のない父兄を指導

兒童の卒業期をひかへて平市職業紹介所では早くも就職斡旋の萬全を期し管内各小學校ごとに就職希望書をとりまとめ斡旋準備に着手したが就職希望者の大部分は時局の影響を受けて軍需工業を希望するものが多いが中には適性關係を無視してたゞ軍需工業界のはなやかさにあこがれる無理解な志望も少くなく更に父兄間にも兒童の就職に無關心な者も多いところから同所では職業擇擇に關し指導を構ずることゝなつた

無資格船長發覺し罰金
江名町字北町帆船齋吉丸船主坑本喜代松(五二)小名濱下町帆船德惠丸船主馬上德十郎(六三)の兩名はいづれも無資格なるものに船長の職を執らせてゐたこと發覺今十日平區から船舶職員法違反で各略式罰金三十圓宛に處された

家畜飼料の講習
講師は佐々木帝大教授
十四、五兩日平市に

平市では來る十四五の兩日東京帝大農學部教授佐々木林治郎氏ほか一名を迎へ平陽女學校で家畜飼料講習會を開く

冬休宿題
磐女展觀

磐女の冬休み課題圖畫書方の成績品展覽會は十一十二日の兩日開催される優秀者には賞狀を授與する筈

女青移植民
縣下の女子青年移植民教育講演會並に協議會は來る二十日福島縣教育會館で開かれるが平市からは千葉聯合女子青年團長が代表出席する

役場改築を喜び
前線の勇士か寄附

泉村大字瀧尻出身小野部隊吉田格治曹長は目下前線で活躍中だが慰問に送られた村報により村役場の改築を知り一ほんの僅かですが資金の一部にして下さい」とてこの程左記便りに金十圓を同村役場宛に送り關係者から感激されてゐる

十三年の正月は南京で迎へましたが十四年は漢口附近で迎へることでせう、目下山間で〇〇中ですから松の大きいのをきつて來て門松にして現地物資を利用して餅を搗いて祝ひませう

植田職工結成
植田署管内二町八ヶ村の各職工組合では十日午前十時から菊田座に於て聯合結成式を擧行、役員を決定した

小名濱港災害對策
其筋に陳情

既報―小名濱港を襲つた突風被害は漁船並に傳馬船の沈沒大破九十七隻被害總額十七萬九千八百四十六圓に及び折柄岩潮アグリ網漁の最盛期であり漁場も本縣沖合であつたゞけに無形の損害莫大とみられ縣では鋭意調査を進めてゐたがこの程左の如き對策を決定岩潮水産課長は明十一日當業者と共に上京東京で坂井部長と落合ひ農林直に陳情、災害運續の折柄特に配慮されたき旨極力陳情することになつた

◇應急對策
一、遠船の復舊に對しては五割以上の國庫助成ありたし
一、漁業者自己資金に對しては低資の供給ありたきこと
一、復舊に要する資材は特に增配ありたし
◇恒久對策
一、現在の小名濱漁港は狹隘且堤防縮小にて繫留荷役不十分避難港としては無價値なるを以て擴張改善せられ港内を擴張浚渫大型漁船も碇泊し得るやう支出せられたし
一、沖合防波堤の改善、擴張、救助艇その他の港内標識完備、其他

聖公會寄附
平市杉平平聖公會ではクリスマス禮拜で集つた平と湯本の信者の献金十円二十錢を宅間六郎氏が代表國防費に献金方今六日市役所に寄託した

天勝座寄附
名華天勝大一座は八九の兩日平市公會堂に開催頗る好評を博したが今十日伊藤一氏が代表して市軍事後援會に金五十圓を寄附した

葉煙草の栽培注意
組合長會議

既報―本年から濱三郡下に奨煙草ホワイトバレー種を耕作せしめることになつた平專賣局出張所では今十日午後一時から平市を始め植田、久之濱、浪江、富岡、原ノ町、中村の各耕作組合長會議を開き耕作上の注意その他を行つたが郡山の高橋專賣局長も臨席された

轢逃運轉手
刑務所に收容

湯本町字天王崎坂本淺吉氏方自動車運轉手齋藤惠次郎(二六)は今十日平檢事局で富澤檢事取調べの上「業務上過失致死並に自動車取締令違反」で起訴刑務所に收容された

同人は去る一日午後六時半頃ハイヤーを運轉内郷村御厩地内國道を疾走中通り合はした同村字久世原先崎馬三郎(六六)氏に衝突腦内出血により即死せしめながら雲を霞と逃走潛伏中捕はれたものである

鐵棒を持つて侵入
罰金百圓に

勿來町大字酒井字竹ノ内古物商吉川繁太郎(四四)は今十日平區から「住居侵入脅迫、傷害罪」で略式罰金百円に處された

同人は舊臘十日夜飲酒の上かねて遺恨に思つてゐた近所の伊藤徹氏方及び菊地忠義方へ鐵棒を持つて侵入敷居、壘等を强打しながら「喧嘩なら何時でもやる殺すから出ろ」と脅迫した外その歸途通り合はした三村兼吉氏を毆打全治約六日間を要する傷害を與へたものである

水道委員會
平市では十二日午前十時から水道委員會を開き仙濠鎭山監督局平支所に對する給水工事に關し附議する

吉田家不幸
平市紺屋町眼科醫吉田久雄氏母堂房子刀自は病氣中の處去る四日遂に永眠、告別式は來る十六日午後零時から一時迄自宅に於て神式に依つて執行され

商人講座
働く者の……
ココロガマエ

東京能率研究所長　黑川カオル

オウキ君が　常磐毎日新聞社に　能率モンダイ　國字モンダイ　などについて　筆を　とつて　いるコトは　ハヤクから　知ツていた。マタ　ぜひ　一筆　願いたい　と云うコトも　云われていた。

イソガシイ　まゝに　ゴブサタ　して　しまつたが　コンド　オウキ君の　商人講座の　アトを　引きうけて　恵かせて　いたゞくコトに　キメた　コレは　オウキ君の　ツズキで　働く者の　ココロガマエの　一通り　である。ソノ　ツモリで　マス

○奉公人根性をすてよ

一たん　會社や商店に　奉公した上からには　もはや　そのツトメの場所は　自分の　死に　場所と　カクゴを　きめなければならない。シゴトは　會社　のシゴトでなく　自分の　死に場所と　カクゴを　きめ　なければならない。シゴトは　會社　のシゴトでなく　自分のシゴトと　自分が　全く一心同体になるコトである。紙一重のスキマもない。できるだけ　研究もし　精一杯にはたらきも　しなければならない。ドコを　さがしても奉公人根性は　見つからない。ココまでくれば、必ず、群を抜くこと　ウタガイなしである

三菱の　木村久藤彌太サンは、明治二十三年二十六才のときに　三菱に入社するとき　御奉公する　私は三菱に　十年間　このカラダを　お預けします。ドウなりとも　お使ひ下さい。モシ十年たつても　役に　たゝぬと思われるような人間だつたら　エンリョなゝやめさして下さい。ソノ上　御奉公するのは　お互に無益です。と　のべたのである。コレラの赤心誠意と捨身の奮闘が　ツイに三菱の王國の大宰相にしあげたのである

「ドウせ　シガない　サラリーマンだヨ」と自分勝手に　あきらめ　へんな要領をおぼえて　表面だけ　テイサイを　つくろうと　云つた　奉公人　根性は　イツまで　たつても　ソの人間を下積みにして　おくのである。奉公人根性は能率の大敵であると云つてもサシツカエがない

（つゞく）

三學期打合
平市内各小學校の第三學期行事打合せ會は今十日午後一時から第二校會議室で行はれた

キネマ

▲世界館―松竹下加茂大作坂東好太郎主演「長脇差試合」高峰三枝子主演「按摩と女」新興特作志賀曉子他一姉ちやんは母さん」外ニュース

▲平　館―日活超特作河部五郎他「加賀百萬石」杉狂兒、星玲子他「あたし幸福よ」獨逸シネアリアンツ超大作「未完成交響樂」外ニュース

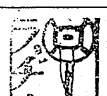
▲聚樂館―高田稔、大日方傳他「牧場物語」丸山定夫熱演「長會根虎徹」阿部九州男他「地雷火藏」外ニュース

平市人事

回出生
△材木町二八半内喜八氏三男英男君
△三丁目三加藤末吉氏長男仁啓君
△鎌田町三五瀧田留藏氏二男孝治君

回婚姻
△正月町一一鈴木信太郎氏(元)内郷村大字白水字廣畑九八鈴木キヨ子ん(三)

回死亡
△中平鍾字二堂田二九小林一氏祖母リンさん(八八)

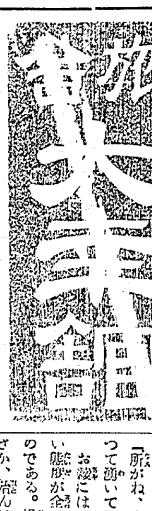


今晩の部
▼後六、〇〇　子供の時間　兒童劇(名古屋)
▼後七、三〇　國民歌謠
▼後八、〇〇　ピアノ獨奏
▼後九、一〇　講談

明日の部
▼前八、五五　小學生の時間「金學年」朝禮訓話、靖國神社宮司陸軍大將鈴木孝雄
▼後〇、〇五　三曲一「子の日の遊」二越後獅子
▼後五、三〇　趣味講演「歴史に現れた奥州の銘刀」長沼一馬
▼後六、〇〇　子供の新聞
▼後八、〇〇「雛生門」大村岡花子
▼後八、四〇　坪地邦「北州千歳」由弘盛清元「ヴァイオリン獨奏と吹奏樂」ヴァイオリン獨奏渡邊新藏
△三丁目三加藤末吉氏長男仁啓君
△鎌田町三五瀧田留藏氏二男孝治君
▼後八、二〇　吹奏樂佐藤プラスバンド歌劇「ウ井リアムテル」序曲ロッシーニ曲
▲後九、〇五　來場所大相撲觸太鼓
▼後九、一五　落語「凝り角力」橘家圓藏

耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
平市南町一六(電話一七〇番)

私は平市出生ですから特に郷里の皆樣方の爲に御便利を圖ります
主人　比佐棟雄
東京上野驛前(下谷郵便局横通角)
電話下谷六七七番



愛情三度笠　吉川英治作　秋方龍

……(156)……
女客人

『お師といつたね、お師さん、それをやアどうしても變の言葉にしたがはないといふのだね』
おしんは、今一度、お綾に向つて聽き糺つた。
『……まア……』
お綾の心は、やゝゆるんで來てゐた。こゝで感情的に、反撥することは、よくないことである事ぐらゐは、知つて居るのである。
『まだ樣へつかないかね』
おしんは、もどかしがる。妙に明はあれつきり言葉を出さない、さうして何か考へて居る。
『それぢや、當分師匠さんになりませうか』
おしんの言葉に嘘はないらしい、然し、此人が、一人居つたが、その間の淋しさで、樣子が知れたのに違ひない。
『まア、どうしませう』
彼女は、大助が入來したと聞いて、驚いて、今までの不愉快な感情を忘れてしまつて、おしんにすがりたいやうな氣持になつてゐる。
おしんも、先刻から部下が帰宅してからの、明を聞いて、やや心の平靜を失つてゐたのである。
『お綾さん、まア、何とかならうと思うんだが、どんな事で、お師さんの力をかりなければならないかも知れないから、その時は、必ず命をとして働いてくれるだらうね』
と、おしんは眞面目であつた。
もう、針で刺したやうな、皮膚なするどい感情の動きは、何處からも見出だすことが出來なかつた。
『ユ、〳〵、どんなことでもいたしますわ、きつとどんなことでも……命なんか、どうでもいいと思ひますわ』
お綾はきつと顔色が變つて來て、何にも恐怖の緊張が、腦の眼にも、腦の上にも動いてゐるやうに思はれる。
『ぢやア、変、これから一寸出かけて行きますから、貴女……此處に待つてゐてせう』
『はい、お待ち申して居ますわ』
『こゝにゐる男達が、どんなことを云ひ出したつて、恐してほんとに思つちや駄目だよ』
『長まりました、恐して……ほんとにしやしません』
『さう、それで安心したよ、恐は一寸知り合ひをたづねて、大助さんの樣をお聞かゝうと思ふのよ』
『どうか、さうなさいい』
と、お綾が折れて出た時に、おしんの顔にかすかながらにも喜色が浮んでゐるのを見たのである。
『さう、それがいゝのよ、その内に、大助樣にも逢はせて上げるよ』
『まア……』
『厭がね、少々面倒なことがふつて湧いてゐるんだよ』
お綾には、おしんの變化の意味が全く不思議でならないのである。尚むべきか、驚くべきか、常んど見當がつかないのであつた。
『驚いて、何しやると……』
お綾はかく然とした。
『大助樣が、獄舍へ入れられてしまつたんださうだよ』
『まア』
『世方がないやね、あの樣な役人なんかと一緒に出かけることが間違つてゐるのさ』
と、彼女は舌打ちする。
『どうしたらいゝのでせうか』
お綾は、急に顔色が蒼白になつた感じがして來た。

物と人と家と庭

迷信による不經濟

根本　禮子

私の郷里でははじめ出産から乳を安くのむ事が出來、腐敗もとれると云ふ迷信となく飼つた事があります。それを飼つた家に火事があつたり、人が死んだりした際の事かこれが結果でもないと云はれ、では殺を飼つてゐる家はありません。それは勿論迷信です。

此の様な迷信の外に三月になると蛸子を頂くのを何故か嫌つて、折角頂き物を蛸までも削このいてしまふ。まつです。

又　南瓜、玉蜀黍を始めて作ると人が死ぬと云つて作らうともしません。日本の村にこの様な他愛ない迷信が蔓延してある事はこの非常時の自粛自足、節約、必要が叫ばれてゐる時に、深く考へなければならないと思ひます。それで私はこの様な不利益な迷信を無くさせるためには

田舎の中學校、高等學校又小學校の先生が國きかけると共に、この様な迷信を根絶する様に努力してゐると云ふ話を一日でも早く明らかにして農村の人達に國民を教育すべきだと思ひます。それによつて不合の農村の人々の生活がいくらかでも豊富になりはしないかと考へられます。

芥子のアクを抜く法

芥子づけやお料理に使ふ場合、芥子の蒸したものを絞じると共に一緒の容器に入れ（から冬季寒に心せかれる思ひがします）そしてこの「蒸させそまの目標」

……☆……

「食野は一汁一菜、ゼンマイ、ヒジキ、イワシ、エボシ、ニシンなど安価で栄養なものがいくらでもおいしく頂けます」

……☆……

女史の「衣」は更に簡素、肉外遠して制限な衣料で夏の和服としては浴衣三枚きり、冬も銘仙三枚だけ「成人の十分の二は結婚に備へ、更に十分の二は國家社会への奉仕用に、そして残り十分の六で生活一切を賄つてゐますが、婦人家庭生活に直接な切実きなと自分から家をつけてやるので「これがまた立派な女中教育です」と女史の談話

新版衣裳哲學

洋裝にもツギハギ結構

たゞ美を忘れてはいけない

秋は紙の下のこほろぎが「眉させ褪させ」と鳴くと、子供の頃からいひきかされてきました、あの哀調をこめた蟲の聲

……☆……

「いま國内に國産品の回收が行われてゐますが、初めに各家庭で整理しておくことが必要と思ひます、私は金物、紙屑、繊維または新聞古雑誌、同じ様に再にして切抜きしたものと整理したものとをみんな別々の整理所を定め、ふだんから整理しておき何時でも眼上出来るやうにしてゐます、私はこれを近所にも地區ごとに國家の各家庭が國産品回收に貢献するやうにしたいと思つてゐます」

……☆……

そこで女中さんも心得たもの、整理の整理だと安に入つたもので、

……☆……

「これからの合理は「補綴」の時らつくろひを徹底な一部分としてもつといかし研究しようではありませんか、それには第一に洗濯に工夫をつくしてある方がこのましいまで、永年の経験に従へて洗濯のいたんだものや、縫つてかざりをつくしたり、洗ひあげたものを明、補綴して整ることは婦人のたしみでこれとも所がかへない限生であり、節約されるばかりでなく見た目にも美しくしましたしみを得たなその人の服装の新境地となります」

× × ×

「しかしよく用者などで見かける「ツギ」のいたにくさ、白、ちゆはんに、縫がりやシャの小布をべた〳〵とあてたり無裏の裏手の裏から上から大針でつつ〳〵縫ひ込んだりしたのは他にふ蛮極まるとくさて、まるで〳〵その人の無神経さと頭脳のひくさを見せつけられます、せめておなじ布を使ふ心がけは必要で無駄の節減わおとしは必ず結婚しておくべきです、縫裁法師でよくあちこれた女が抽斗や箱箱の底に眠つてゐる裏手の裏から上から大針でつつ〳〵縫ひ込んだりしたのは他にふ蛮極まるとくさて、まるで〳〵その人の無神経さと頭脳のひくさを見せつけられます、せめておなじ布を使ふ心がけ